

山田みやこの活動報告

令和2年2月7日(金)

母子生活支援施設「わかくさ」を訪問

所長の荒井氏より説明を受けた。

「わかくさ」は社会福祉法人とちぎ健康福祉協会が設置、運営している。

定員20世帯中19世帯が利用。17世帯は県外からの方となっている。

利用している母親の年齢は25～45歳で30代が多い。子どもは幼児から中学生まで。自立に向けて13人は就労している。

母子家庭支援施設は、18歳未満の子どもを養育している母子家庭、または何らかの事情で離婚の届け出ができないなど母子家庭に準ずる家庭の女性が子どもと一緒に入所し、自立のための支援を受けることができる施設。

～わかくさ居室（一例）～

家族ごとに独立した居室で生活します。キッチン・バス・トイレ・エアコン完備です。



保育室

心理相談室



学習室



自立に向けたお母さんへの支援に加え、お子さんの健やかな成長を支援するため、各種支援を行っています。

- 入園待機児、病後児保育等の補完保育実施
- 帰宅後の学習支援、各種教室実施（書道・英語）
- 季節の行事、レクリエーションの実施
- 心理療法担当職員によるカウンセリング